

くまのじんじゃ ちごまい 熊野神社 稚児舞 —越中の稚児舞—

国指定無形民俗文化財

婦中町中名 851-1
熊野神社

越中の稚児舞は、射水市の加茂神社、黒部市宇奈月町明日の法福寺とこの熊野神社にそれぞれ伝えられています。

熊野神社では、8月25日の祭りに仮設舞台で演じられます。稚児は、8才から9才くらいの男子4人で小稚児、大稚児からなり、毎年2人の小稚児が新しく選ばれます。稚児は、近くの公民館から大人の肩車に乗って神社に向かい、舞が終わるまで土を踏みません。清らかで汚れのない稚児は、神や仏の役をになっています。神社に向かう行列は5本の道中旗を掲げ、神官が先導し、その後には大人の肩に乗った稚児、獅子が続きます。

舞は、獅子が2曲舞った後、^{ほこ}鉦の舞、^{かこ}賀古の舞、^{りんか}林歌の舞、^{えびす}蛭子の舞、^{こなぞ}小納曾利の舞、^{おおなぞり}大納曾利の舞、^{ぼいろ}陪臚の舞の7曲からなっています。下村の加茂神社の稚児舞よりテンポが速く、内容も人々に親しみやすくなっています。

この稚児舞は、^{ほうすい}宝永元年（1704年）の秋、村に病気が流行したとき村の有力者であった若林源左衛門が、それを治めようとして^{ほうろう}奉納したのが始まりといわれています。



熊野神社



熊野下車 (地鉄バス) 徒歩3分

